



平成29年3月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成29年2月9日

上場会社名 株式会社AOKIホールディングス
 コード番号 8214 URL http://www.aoki-hd.co.jp/
 代表者(役職名) 代表取締役社長 (氏名) 青木 彰宏
 問合せ先責任者(役職名) 取締役副社長 (氏名) 田村 春生
 四半期報告書提出予定日 平成29年2月10日 配当支払開始予定日 —
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有
 四半期決算説明会開催の有無 : 無

上場取引所 東

(TEL) 045-941-1388

(百万円未満切捨て)

1. 平成29年3月期第3四半期の連結業績(平成28年4月1日～平成28年12月31日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
29年3月期第3四半期	133,404	1.8	4,259	△48.7	3,972	△51.3	2,271	△51.9
28年3月期第3四半期	131,030	2.8	8,311	△3.2	8,164	△4.2	4,720	△5.7

(注) 包括利益 29年3月期第3四半期 2,538百万円(△46.5%) 28年3月期第3四半期 4,744百万円(△16.7%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
29年3月期第3四半期	25.67	—
28年3月期第3四半期	52.19	—

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
29年3月期第3四半期	229,935	139,375	60.6
28年3月期	230,363	142,926	62.0

(参考) 自己資本 29年3月期第3四半期 139,287百万円 28年3月期 142,838百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
28年3月期	—	20.00	—	20.00	40.00
29年3月期	—	21.00	—	—	—
29年3月期(予想)	—	—	—	22.00	43.00

(注) 直前に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 平成29年3月期の連結業績予想(平成28年4月1日～平成29年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	196,270	4.1	15,800	△11.2	15,500	△12.1	8,800	△9.4	99.73

(注) 直前に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動 (連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無
- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 有
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(注) 詳細は、添付資料3ページ「2. サマリー情報(注記事項)に関する事項」をご覧ください。

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)	29年3月期3Q	90,649,504株	28年3月期	90,649,504株
② 期末自己株式数	29年3月期3Q	3,167,662株	28年3月期	984,762株
③ 期中平均株式数(四半期累計)	29年3月期3Q	88,461,871株	28年3月期3Q	90,439,736株

※ 四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

・この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、四半期連結財務諸表に対する四半期レビュー手続が実施中です。

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

(将来に関する記述等についてのご注意)

・本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件等については、添付資料3ページ「(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

	頁
1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. サマリー情報(注記事項)に関する事項	3
会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示	3
3. 四半期連結財務諸表	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
四半期連結損益計算書	6
四半期連結包括利益計算書	7
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	8
(継続企業の前提に関する注記)	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	8
(セグメント情報等)	8
(重要な後発事象)	9

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第3四半期連結累計期間におけるわが国経済は、企業収益及び雇用や所得環境の改善等により、緩やかな回復基調にあるものの、個人消費は節約志向などから依然として力強さに欠ける状況で推移いたしました。また、海外の政治や経済の動向等もあり、景気の先行きは不透明な状況となっております。

このような環境のなかで、当社グループは各事業において下記のような諸施策を実施した結果、売上高は1,334億4百万円（前年同期比1.8%増）、営業利益は42億59百万円（前年同期比48.7%減）、経常利益は39億72百万円（前年同期比51.3%減）、親会社株主に帰属する四半期純利益は22億71百万円（前年同期比51.9%減）となりました。

セグメントごとの業績は、以下のとおりです。

(ファッション事業)

AOKIでは、新システム導入によるパーソナルオーダーの強化や大きいサイズ「Size MAX（サイズマックス）」の展開を拡大するとともに、あらゆるシーンで着回せる「ニュージャケビズスタイル」の提案及びレディス商品は、「エレガンスライン」を新たに展開し更なる品揃えを拡充するなど、既存店の活性化に注力いたしました。また、約100店舗の大規模改装後の開店セールを実施し集客を図りました。店舗面では、12店舗を新規出店した一方、移転を含め5店舗を閉鎖した結果、当第3四半期末の店舗数は574店舗（前期末567店舗）となりました。

ORIHICA（オリヒカ）は、テレビCM第2弾の放映及びSNSとの連動やECサイトのリニューアルを実施し、認知度向上を図りました。また、「THE 3rd SUITS（サードスーツ）」や「プラチナライン」シリーズ等オリジナル商品の開発を継続いたしました。店舗面では、4店舗を新規出店した一方、2店舗を閉鎖した結果、当第3四半期末の店舗数は146店舗（前期末144店舗）となりました。

これらの結果、新規出店と改装開店セールが寄与したものの、セールに伴う売上総利益率の低下や改装等に伴う販売管理費の増加により、売上高は761億58百万円（前年同期比3.1%増）、営業損失は5億13百万円（前年同期は18億52百万円の営業利益）となりました。

(アニヴェルセル・ブライダル事業)

ゲストハウスウェディングスタイルの挙式披露宴施設を展開しているアニヴェルセル株式会社は、新たな集客経路としてのプロポーズプランの強化やブランドイメージを強みとした販促訴求を実施するとともに、基幹システムの入替えによる業務の効率化を推進いたしました。しかしながら、市場環境等の影響により施行組数が減少いたしました。

これらの結果、売上高は209億1百万円（前年同期比11.1%減）、営業利益は23億71百万円（前年同期比32.4%減）となりました。

(カラオケルーム運営事業)

株式会社ヴァリックのカラオケルーム運営事業は、忘年会シーズンに合わせた多彩なパーティーコースの提案や人気キャラクターとのコラボレーションキャンペーンを実施するとともに、カラオケ最新機種を導入し、既存店の活性化に注力いたしました。店舗面では、8店舗を新規出店した一方、1店舗を閉鎖した結果、当第3四半期末の店舗数は190店舗（前期末183店舗）となりました。

これらの結果、新規出店が寄与したものの、市場環境や競争激化等の影響により既存店が苦戦し、売上高は139億69百万円（前年同期比1.7%増）、営業利益は5億91百万円（前年同期比49.7%減）となりました。

(複合カフェ運営事業)

株式会社ヴァリックの複合カフェ運営事業は、女性専用エリアの導入やブース構成の改善を中心としたリニューアルの実施及びパソコン性能やWi-Fi環境の改善等により、既存店の活性化に注力いたしました。店舗面では、鳥取県及び沖縄県への初出店を含め、積極的に33店舗を新規出店した一方、契約満了により1店舗を閉鎖した結果、当第3四半期末の店舗数は327店舗（前期末295店舗）となりました。

これらの結果、新規出店が寄与したものの、出店に伴う費用の増加等により、売上高は223億89百万円（前年同期比12.1%増）、営業利益は13億81百万円（前年同期比17.0%減）となりました。

(2) 財政状態に関する説明

資産、負債及び純資産の状況

(資産)

当第3四半期連結会計期間末の総資産は、前連結会計年度末と比べ4億27百万円減少し、2,299億35百万円となりました。

流動資産は、たな卸資産が新規出店等により18億12百万円及び未収法人税等のその他が28億45百万円増加した一方、現金及び預金が設備投資や法人税等の支払い等により55億34百万円及び売掛金が季節的要因等により36億円減少したこと等により、前連結会計年度末と比べ44億67百万円減少いたしました。固定資産は、投資その他の資産のその他が投資有価証券の売却等により11億62百万円減少した一方、有形固定資産が新規出店及びリニューアル等により49億36百万円増加したこと等により、前連結会計年度末と比べ40億40百万円増加いたしました。

(負債)

流動負債は、未払法人税等が法人税等の支払いにより23億19百万円及び賞与引当金が支給等により7億46百万円減少した一方、短期借入金を50億円実施したこと等により、前連結会計年度末と比べ10億84百万円増加いたしました。固定負債は、長期借入金が借入れの実施及び約定返済等の結果11億75百万円増加したこと等により、前連結会計年度末と比べ20億38百万円増加いたしました。

(純資産)

純資産の部は、利益剰余金が親会社株主に帰属する四半期純利益及び剰余金の配当の結果12億60百万円減少し、自己株式が取得により25億57百万円増加したこと等により、前連結会計年度末と比べ35億50百万円減少しております。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

当第3四半期連結累計期間の業績については、予想を下回って推移しておりますが、ファッション事業における第4四半期の比重が高く、平成28年11月10日に公表した業績予想を修正しておりません。

2. サマリー情報(注記事項)に関する事項

会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

(会計方針の変更)

「繰延税金資産の回収可能性に関する適用指針」(企業会計基準適用指針第26号 平成28年3月28日。以下「回収可能性適用指針」という。)を第1四半期連結会計期間から適用し、繰延税金資産の回収可能性に関する会計処理の方法の一部を見直しております。

回収可能性適用指針の適用については、回収可能性適用指針第49項(4)に定める経過的な取扱いに従っており、第1四半期連結会計期間の期首時点において回収可能性適用指針第49項(3)①から③に該当する定めを適用した場合の繰延税金資産及び繰延税金負債の額と、前連結会計年度末の繰延税金資産及び繰延税金負債の額との差額を、第1四半期連結会計期間の期首の利益剰余金に加算しております。

この結果、第1四半期連結会計期間の期首において、繰延税金資産(投資その他の資産)が110百万円、利益剰余金が110百万円増加しております。

3. 四半期連結財務諸表

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成28年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成28年12月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	27,560	22,026
売掛金	9,437	5,836
たな卸資産	27,835	29,648
その他	9,111	11,956
貸倒引当金	△45	△36
流動資産合計	73,899	69,431
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	58,900	63,079
土地	36,934	36,953
その他(純額)	12,010	12,749
有形固定資産合計	107,846	112,782
無形固定資産		
投資その他の資産	6,680	6,444
差入保証金	8,307	8,266
敷金	20,576	21,120
その他	13,093	11,930
貸倒引当金	△40	△40
投資その他の資産合計	41,936	41,277
固定資産合計	156,464	160,504
資産合計	230,363	229,935
負債の部		
流動負債		
買掛金	18,021	17,604
短期借入金	—	5,000
1年内返済予定の長期借入金	4,050	4,150
未払法人税等	2,669	349
賞与引当金	1,708	961
役員賞与引当金	98	86
その他	11,700	11,180
流動負債合計	38,248	39,333
固定負債		
長期借入金	36,275	37,450
役員退職慰労引当金	1,845	1,915
ポイント引当金	1,014	973
退職給付に係る負債	853	899
資産除去債務	5,109	5,424
その他	4,090	4,563
固定負債合計	49,187	51,226
負債合計	87,436	90,560

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成28年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成28年12月31日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	23,282	23,282
資本剰余金	27,833	27,833
利益剰余金	92,929	91,669
自己株式	△1,436	△3,994
株主資本合計	142,609	138,791
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	612	792
退職給付に係る調整累計額	△383	△296
その他の包括利益累計額合計	229	496
新株予約権	87	87
純資産合計	142,926	139,375
負債純資産合計	230,363	229,935

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

四半期連結損益計算書

第3四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成27年4月1日 至平成27年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成28年4月1日 至平成28年12月31日)
売上高	131,030	133,404
売上原価	71,854	76,374
売上総利益	59,175	57,030
販売費及び一般管理費	50,864	52,770
営業利益	8,311	4,259
営業外収益		
受取利息	80	74
受取配当金	122	91
不動産賃貸料	456	458
その他	233	209
営業外収益合計	893	834
営業外費用		
支払利息	248	237
不動産賃貸費用	409	382
固定資産除却損	219	255
その他	163	245
営業外費用合計	1,040	1,121
経常利益	8,164	3,972
特別利益		
投資有価証券売却益	41	545
特別利益合計	41	545
特別損失		
減損損失	390	471
災害による損失	—	102
訴訟和解金	439	—
特別損失合計	829	574
税金等調整前四半期純利益	7,376	3,944
法人税、住民税及び事業税	2,019	1,783
法人税等調整額	636	△110
法人税等合計	2,656	1,673
四半期純利益	4,720	2,271
親会社株主に帰属する四半期純利益	4,720	2,271

四半期連結包括利益計算書
第3四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成27年4月1日 至平成27年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成28年4月1日 至平成28年12月31日)
四半期純利益	4,720	2,271
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△43	179
退職給付に係る調整額	66	87
その他の包括利益合計	23	267
四半期包括利益	4,744	2,538
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	4,744	2,538
非支配株主に係る四半期包括利益	—	—

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

当第3四半期連結累計期間(自平成28年4月1日 至平成28年12月31日)

自己株式の取得

当社は、平成28年2月15日開催の取締役会決議に基づき、自己株式2,182千株の取得を行いました。この結果、当第3四半期連結累計期間において自己株式が2,557百万円増加し、当第3四半期連結会計期間末において自己株式が3,994百万円となっております。

(セグメント情報等)

前第3四半期連結累計期間(自平成27年4月1日 至平成27年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：百万円)

	報告セグメント					調整額 (注) 1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 2
	ファッション 事業	アニヴェル セル・ブラ イダル事業	カラオケ ルーム 運営事業	複合カフェ 運営事業	合計		
売上高							
外部顧客への売上高	73,837	23,496	13,728	19,967	131,030	—	131,030
セグメント間の内部 売上高又は振替高	4	24	2	0	31	△31	—
計	73,842	23,520	13,730	19,968	131,061	△31	131,030
セグメント利益	1,852	3,508	1,175	1,663	8,200	110	8,311

(注) 1. セグメント利益の調整額110百万円には、セグメント間取引消去3,290百万円及び各報告セグメントに配分していない全社費用△3,179百万円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない提出会社の管理部門等の費用です。

2. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

「ファッション事業」、「カラオケルーム運営事業」及び「複合カフェ運営事業」の各セグメントにおいて、店舗の閉鎖が決定し回収が見込めなくなった又は損益が継続的にマイナスとなっている営業店舗について減損損失を認識いたしました。なお、当該減損損失の計上額は、当第3四半期連結累計期間においてはそれぞれ109百万円、133百万円及び147百万円です。

当第3四半期連結累計期間(自 平成28年4月1日 至 平成28年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：百万円)

	報告セグメント					調整額 (注) 1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 2
	ファッション 事業	アニヴェル セル・ブラ イダル事業	カラオケ ルーム 運営事業	複合カフェ 運営事業	合計		
売上高							
外部顧客への売上高	76,157	20,892	13,965	22,389	133,404	—	133,404
セグメント間の内部 売上高又は振替高	1	9	4	—	15	△15	—
計	76,158	20,901	13,969	22,389	133,420	△15	133,404
セグメント利益 又は損失 (△)	△513	2,371	591	1,381	3,831	428	4,259

(注) 1. セグメント利益又は損失の調整額428百万円には、セグメント間取引消去3,268百万円及び各報告セグメントに配分していない全社費用△2,840百万円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない提出会社の管理部門等の費用です。

2. セグメント利益又は損失は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

「ファッション事業」、「カラオケルーム運営事業」及び「複合カフェ運営事業」の各セグメントにおいて、店舗の閉鎖や建替えが決定し回収が見込めなくなった又は損益が継続的にマイナスとなっている営業店舗について減損損失を認識いたしました。なお、当該減損損失の計上額は、当第3四半期連結累計期間においてはそれぞれ192百万円、206百万円及び72百万円です。

(重要な後発事象)

当社は、経営環境の変化に対応した機動的な資本政策の遂行及び株主価値向上を目的として、平成29年2月9日開催の取締役会において、自己株式の取得について決議いたしました。

なお、詳細は本日別途開示しました「自己株式取得に係る事項の決定に関するお知らせ」をご覧ください。